

中国では、元旦よりも春節（旧正月）の方を盛大に祝う。春節は旧暦の一月一日で、中華民国の建国で西暦を使用するようになってから、西暦の元旦と区別するために、「春節」という呼び名が使われるようになった。

中国の春節は食事が重要な役割を果たしている。夕食はとりわけ豪華なもので、この時期に用意される料理には、幸運の象徴とみなされるものが少なくない。大みそかの夕食に魚の姿煮や甘酢あんかけを好んで食べるのは、魚の字が中国の四字熟語の「年年有余」（ネェンネェンヨウウユウ）の「余」と同じ発音で「年々余裕があるように」という意味だからだ。

私の故郷、黒龍江省では新年一番目に食べる餃子を、除夜の鐘が鳴る午前零時の時刻に合わせてゆであげる。餃子の皮を丸く伸ばすのは家計をやり繰りするのが上手、具を包む時にシワを多く寄せるのは、子供がたくさんできることといった縁起の良いたとえである。

くば・みくも 1972年生まれ。中国黒龍江省チチハル市出身。那覇市在住。法政大学中退後



北京外国語大
学へ。スピー
スチャイナ代
表取締役。

春節

久場 未雲

また、餃子は金塊のような形をしていることから、財運をもたらすとも信じられている。

思えば母が作った、新年一番目に食べる餃子は必ずセロリ餃子だった。セロリは中国語で芹菜（チンツァイ）といい、「芹」は勤勞感謝の「勤」と同じ発音で、勤勉を誇りに思う母の気持ちを子供の私たちに教える為だった。家族そろって餃子を食べるのは、家族の一人も欠けることなく一家繁栄や子供の成長などへの願いを込めているのだ。

食べ物の他、家中に吉祥文字や絵など、縁起の良い飾り物を飾る習慣も古くから受け継がれてきた。私のオフィスに中国から持ってきた、「福」の文字が逆さに書かれていた色紙を飾っていたら、多くの方に、「これ逆になっていいよ」と指摘を受けたことがある。

中国語で逆さまは「倒（ダオウ）」、これは到来の「到」の漢字と同じ発音で、福がやって来るという意味になり、非常に縁起の良い言葉である。「福」以外に、「寿」、「春」などの文字も逆さにはるのが一般的で、門や入り口のかまちは春聯（チュンレン）をはる習慣もある。春聯とは赤い巻き紙に、めでたい文句が書かれている対聯のことである。

（会社代表）